

いろいろな活動を通して、人と人の繋がりをを感じる。 親と子の居場所づくり。

栃木県佐野市

■ 活動名

いきいき何でも体験クラブ

■ 関係する学校

栃木県佐野市立犬伏東小学校

活動区分	基本データ			
	学校支援 地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	19人	80日	有
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
	体育館、校庭、空き教室		19年度	無
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

「子供たちにいろいろな体験をして欲しい」という、願いを込めて活動している。地域の指導者の他に、PTA組織の中に放課後子供教室の活動を支える「居場所づくり実行委員会」があり、多くの保護者が子供たちを見守っている。子供の自主性ややる気を大切に、社会性、協調性を育みながら、活動を進めている。

活動日は、毎週土曜日と平日水・木曜日としている。

土曜日は、ミニバスケットや自由遊び、イベント活動として「竹を削ることから始まる流しそうめん」「年2回のミニミニコンサート」「校庭の隅に教室用の畑を作り、野菜などの収穫体験」「収穫祭としての芋煮会」などの活動を行っている。

水曜日は、体育館でミニバスケットを行っている。

木曜日は、学習室で「のんびり学び塾」として、宿題や自主学習など子供たちが持参したドリルなどに取り組み、終了した子から体育館に直行し、ミニバスケットに参加している。また、高学年の希望する子供には、大学生の協力で英語を教える日もある。

参加人数が少ない日もあるが、教室に参加してきた子供が1人でもいればその1人を大切に、活動を進めている。

1人が1人の友達を連れてくれば、2人になり、2人が4人になり、どんどん増えていき、さらに、保護者も子供と一緒に参加して子供とふれ合う時間となるような教室にしたいという思いで、コーディネーターが活動を支えている。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

- ・地域の若いコーチのバスケット指導や中学生が来校し一緒にバスケットをしたり、大学生が教室に参加し英語を教えたり宿題をみたりするなど、地域の若い力を有効活用している。
- ・子供たちの「みんなの前で、ピアノを弾いてみたい」という声を吸い上げ、年2回ミニミニコンサートを行う。演奏者は子供だけでなく、地域、学校関係者なども出演するなど、イベント的には、大きくなっていく。
- ・コーディネーターが中心となって活動を行っている。学校や地域、関係者との連絡調整を常に行い、子供の安全を確保しながら体験活動を行っている。また、大人が教室にいつでも関わることができるように、門戸を広げている。

【実施に当たっての工夫】

- ・子供の安全面を配慮し、参加者は登録制とし、年間活動予定表に終了時刻を記入し、保護者等の迎えを原則とする。また、「出席カード」で、毎回保護者に子供の出欠、下校の方法など責任をもたせる。
- ・イベント的な活動のときは、全校生を対象にチラシを配り募集をするなど、普段放課後子供教室に参加していない子供も参加できるようにしている。
- ・PTA組織の中に居場所づくり実行委員会を置き、保護者もボランティアとして参加してもらい、学校に足を運び自分の子供の様子などを見ることで、学校を身近なものとする。
- ・活動を広げるきっかけとして、子供や保護者、学校の先生などの一言を大切にしている。「要望に応える。」という意気込みで、試行錯誤しながら実施に向けて話し合いなどを行う。

■ 事業を実施して

- ・これまで学校行事などに関わりの少なかった保護者が、子供が教室に参加するようになり、自分も学校に行くことが多くなり、関心を持つことができた。
- ・あいさつの仕方や子供同士の関わり方、ルールを守ることなど、基本的なことができない子供が増えているが、年度が終わるころには、きちんとできるようになり、たくましく感じた。
- ・ミニバスケットを始めたばかりでボールに振り回されている子供が、ゴールを決めた時など、子供の成長した姿や家では見ることができない子供の姿を見ることができて、うれしい。

■ その他

全学年の子供が、仲良くバスケットをする。年上の子、上手な子、得意な子が、年下の子、苦手な子に教え、できるようになる。お互いできないところを助け合い、協力しながら、のびのび、いきいき楽しむ。「それが当たり前になる」ことが、この教室のいいところ。



PTA組織図



土曜日の放課後子供教室